

学校教育目標	自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間性豊かな児童の育成	
目指す学校像	みんなキラキラ さわやか笑顔の大東小学校を目指して「夢と希望の溢れる学校」「よさを見つけて伸ばす学校」「家庭や地域社会と共に歩む学校」	
重点目標	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による自立した学習者の育成 2 生徒指導体制、教育相談体制の充実による児童のよさを伸ばす教育の推進 3 地域とともに児童の健やかな成長と安全を見守る持続可能なコミュニティ・スクールの推進 4 教育環境の整備による安心・安全な学校づくりの推進 5 誰もが働きやすく、一人ひとりが力を発揮することができる教職員集団の醸成	(学びの質の向上) (子どもの発達や心のサポート) (地域とともにある学校づくり) (教育環境の整備) (教職員のキャリア形成)

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、平均正答率は、全国、市を下回った。 ○さいたま市学習状況調査においては、全国学力・学習状況調査と比較すると、市の平均正答率との差が大きく縮まった。 <課題> ○解答を記述する問題の無回答率が全国、市と比較して高い傾向であった。自分の考えを表現することに苦手意識が見られる。 ○「国語・算数・理科の勉強は好き」「国語・算数・理科の授業の内容はよく分かる」について、肯定的な回答は高いが平均正答率に結び付いていない。ICTの効果的活用を図りながら、各教科の本質に触れさせ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を確実に育む授業改善を行うことが必要である。	・思考力、表現力の向上に向けた授業改善 ・児童が主体的に取り組む個別最適な学び、協働的な学びの充実を図る授業改善	○全国学力・学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリングを受けることで、より効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の学力向上を図る。 ○児童が学習方法を選択しながら、じっくり思考したり、自分の考えを伝えたり、議論したりする活動の充実を図り、思考力、表現力の向上を図る。 ○全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行うことで、児童が自らの学習状況を把握し、目標をもって学習できるようにする。 ○Teams、ウリノ、One Note Class Notebook、Forms、Canva、SSDB等、ICTも効果的に活用しながら、個別最適で協働的な学びの充実、主体的・対話的で深い学びを実現する。	①調査結果の分析や学力向上カウンセリングを踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定し、実践することができたか。 ②市学習状況調査において、「思考力・判断力・表現力等」の平均正答率が前年度より向上したか。 ③児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ④市学習状況調査において、「ICTを活用した学び」に係る項目において、肯定的に回答する割合が90%以上となったか。					
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は89.8%で全国、県の平均を上回ったが、市の平均は下回った。 <課題> ○子どもたちの悩みや家庭の状況が多様化しており、一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に適時、適切に支援していく必要がある。 ○不登校をはじめ、教室に入れない児童の増加に伴い、誰一人取り残さない学びを支援し、保障する体制の充実が課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援、相談に向けた校内体制の充実 ・多様な学びを支援する体制の充実	○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通して、いじめの認知について共通理解する。 ○各種アンケート、保護者面談等から得られた情報を基に、SSW、SC等の専門職、関係外部機関とも連携しながら、迅速かつ組織的に対応する。 ○児童の多様な学びを支援するために、Sola 一むの活用をはじめ、オンライン授業の提供をすとも、学習支援ボランティアの増員等、持続可能な運営体制を整備する。	①学校評価「相談対応」に係る項目において、肯定的に回答する割合が90%以上となったか。 ②組織的かつ迅速な対応が必要な場合には、ケース会議を開催し、具体的な手立て等を共有して対応することができたか。 ③支援が必要な児童に対して、Sola 一むの有効活用、オンライン授業の提供が十分にできたか。					
3	(現状) ○学校運営協議会では「あいさつ」「コミュニケーション」「エージェンシー」について熟議を継続している。学校、地域、家庭の連携、取組充実のための方策等を検討することができた。 ○学校、家庭、地域が連携して、多くの地域行事を開催した。子どもたちに地域行事の楽しさや地域のよさを味わわせることができた。 <課題> ○学校運営協議会の充実に向け、児童の参加による活性化、家庭、地域への情報発信による協働体制の構築が必要である。 ○コロナ禍以降、SSN会議や民生委員連絡会の開催がない。連携強化を図る必要がある。	・持続可能なコミュニティ・スクールの推進 ・児童の活躍の場の創出による社会貢献意識・帰属意識の醸成	○学校運営協議会において「あいさつ」「コミュニケーション」「エージェンシー」について熟議を継続し、持続可能な目標、取組を設定し推進する。 ○多様な機会、媒体で「目指す学校像」「目指す児童像」「教育活動」等の情報を積極的に発信して共通理解、連携を深める。 ○児童会を主体とした校内や小中連携のあいさつ運動、PTA、地域、SSNと連携した教育活動、行事等を実施しながら、児童のエージェンシーを育む。	①学校評価「あいさつ」に係る項目において、肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ②学校評価「学校教育方針」「教育活動公開」において、肯定的に回答する割合が前年度以上となったか。 ③市学習状況調査「地域」「主体的な態度」に係る項目において、肯定的に回答する割合が前年度以上となったか。					
4	(現状) ○昨年度、施設設備の不備等が主な原因と考えられる児童のけがは発生していない。学校管理下のけがで医療機関を受診した件数は67件であった。 <課題> ○施設設備の安全点検を確実に行うとともに、児童が自ら危険を予測したり、安全に行動したりする力を育むことが課題である。	・安全で整備された教育環境の提供 ・児童の安全意識の向上	○安全点検(日常・毎月)と迅速な修繕(学校対応概ね1週間以内)を基盤に、安全な教育環境整備を進める。 ○交通安全教室、自転車運転免許講習、避難訓練、引渡訓練、ケータイ・スマホ安全教室、ASUKAモデル、薬物乱用防止教室、金融リテラシー教育等、児童が安全について主体的に考える体験的学びを充実させる。	①学校評価「教育環境整備」に係る項目において、肯定的に回答する割合が90%以上となったか。 ②学校評価「健康・安全」に係る項目において肯定的に回答する割合が90%以上となったか。 ③学校管理下のけがで医療機関を受診した件数が前年度を下回ったか。					
5	(現状) ○リーディングDXスクール事業指定校として、エバンジェリストを中心に、ICTを効果的に授業で活用していくための研修を自走スタイルで行い、「教育DX」を推進した。 ○学校行事や業務改善に活用するためのアイデアを積極的に取り入れ、教職員も参画する働き方改革を進めている。 <課題> ○初めて教職につく教員や経験が浅い教員、異動してきた教員が自信をもって子どもに向き合うための支援、研修体制の構築が必要である。 ○児童の心に寄り添い、認めて、ほめて、伸ばす指導(コーチング)を通して、児童のエージェンシーを育む必要がある。	・一人ひとりがスキルアップを図り、力を発揮することができる教職員研修の推進	○研修主任、学校DX推進部を中心に自走する研修を推進するとともに、教職員からのアイデアを収集し、授業改善や業務改善に積極的に取り入れる。 ○初任者研修、年次研修、学校課題研修、指導訪問等を活用して教員同士が学び合う場を充実させる。 ○授業観察を計画的に行い、年次や経験等に応じ「学びのポイント『じ・し・ゃ・く』」「キャリアnavi」「カリマネ支援パッケージ」等を基に指導助言する。 ○「学びの指標」アンケートで「主体的な学び」「探究的な学び」「ICTの効果的な活用」「基礎的な授業スキル」について、集計シート、チェックシートを活用しながら学習者目線で授業改善を行う。	①教職員のアイデアを積極的に生かし、年間5つ以上の授業改善、業務改善に向けた新たな取組を実施できたか。 ②学校評価「教職員研修」において、肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ③学校評価「授業改善」において、肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ④「学びの指標」アンケートにおいて、第1回(6月実施)の課題となる項目について、第2回(12月実施)で改善が図られたか。					